

審判上の注意

1. 2023年度（公財）日本バレーボール協会 6人制競技規則、及び2023年度（公財）日本中体連バレーボール競技部における6人制ルールの取り扱いに則って行う。
※リベロリプレースメントの取り扱いは、（公財）日本中体連における『リベロリプレースメント』の変更についての付則（2023年4月15日付改正版）を参照すること。
2. プロトコール（3セットマッチ用、6人制ルールブック巻末参照）は準々決勝より採用する。（それまでの試合は公式練習を省略する。）
3. 試合開始時と終了時は、エンドライン上に選手全員が整列し、ファーストレフェリーのホイッスルでアタックラインまで移動し、ネットを挟んで拍手を交わす。（握手は控える。）
4. ラリー中、監督はスコアラーズテーブルに最も近い位置でベンチに座っていなければならない。プレーしていない選手はベンチに座っているか、ウォームアップエリアにいなければならない。
5. ゲームキャプテンだけが審判に質問をすることができる。
6. セット間は、自チームのフリーゾーンでボールを使用してもよいが、隣のコートに配慮しパス程度とする。
7. スポーツマンとしてふさわしくない行為はしないこと。役員、相手チームのプレーヤーはもちろん、自チームのチームメンバーに対しても、粗暴な行為や人格を損なうような言動は慎まなければならない。
（相手チームに向かってのガッツポーズ、相手を指さして牽制する行為、発言などは認められない。）
※軽度の不法行為があった場合、まずゲームキャプテンを通じてチームに口頭警告（ステージ1）、再発した場合は当該選手にイエローカードによる警告（ステージ2）が与えられる。チームスタッフも選手と同様である。
8. ゲームの遅延を避けるため、ラリーが終了した時点で、すぐに次のラリーを始める準備をすること。ボールは、速やかにネット下から相手チームへ、そしてサーバーへ送ること。
9. 正規の試合中断（タイムアウト）の要求ができるのは、監督だけである。その際、監督はハンドシグナルをはっきり示して審判員に要求を伝えること。
10. 選手交代については、全ての試合で「クイックサブスティチューション」を採用する。
※「クイックサブスティチューション」：「交代準備のできた選手が選手交代ゾーンに入ること」によって交代の要求とする。監督によるハンドシグナルは必要ない。
11. リベロプレーヤーのリプレースメント（交代）については、バックゾーンのサイドライン上ですれ違うこと。交代する選手同士が手を挙げたり、立ち止まったりする必要はない。
12. ワイピングについて
 - ・ワイピングが必要な時は、ラリーの終了から次のサービス許可の吹笛までに、コート上の選手が携帯したワイピング用タオルで拭くこと。（コート上のプレーヤーで拭ききれない場合のみ、エントリー選手の中から1名をクイックモップパーとしてコートに入ることを認める。）
 - ・柄付きモップによる床のワイピングは、タイムアウト中とセット間、およびファーストレフェリー・セカンドレフェリーが必要と認めた場合にのみ行う。（試合を遅延させるような行動はとらないこと。）

トーナメント戦形式で実施する場合の審判運営について

【レフェリー、コートオフィシャルについて】

<ファーストレフェリー・セカンドレフェリー（主審・副審）>

- ・ファーストレフェリー、セカンドレフェリーについてはチームスタッフの教員が務めること。外部コーチの場合は、日本バレーボール協会公認審判員資格を持つ者であればレフェリーを務めることができる。
- ・ファーストレフェリーを出せない場合は、対戦するチームに依頼すること。それでも出せない場合は、前日までに速やかに審判委員長（白鳳中学校 岡田 崇）まで連絡すること。
- ・ファーストレフェリー、セカンドレフェリーは、ホイッスルを使用すること。
- ・2コート同時進行の際、隣コートと区別できるように2種類（短管・長管）のホイッスルを用意すること。

<コートオフィシャル（生徒役員）>

- ・スコアラー（原則生徒で）・ラインジャッジ・点示係は、担当チームに所属する生徒が担当すること。ラインジャッジは、エントリー選手が担当すること。
- ・1チームで担当する場合は、スコアラー1名、ラインジャッジ4名、点示係2名を担当すること。チームの生徒数が7名に満たないチームの場合は、点示係を1名で行うこと。
- ・2チームで担当する場合は、各チームからラインジャッジ2名、点示係1名ずつを担当すること。スコアラー1名の担当については両チームで相談すること。
- ・スコアラーを担当する者は、各自で筆記用具を持参すること。

【各試合の審判割当について】

- ・各コートの第1試合は、当該コートの次の試合の両チームが担当すること。両チームでファーストレフェリー（セカンドレフェリーは任意）、スコアラー、ラインジャッジ、点示係の役割分担について相談すること。
- ・各コートの第2試合以降は、当該コートの前試合で敗れたチームがファーストレフェリー（セカンドレフェリーは任意）、スコアラー、ラインジャッジ、点示係を担当すること。

<準々決勝以降（大会2日目・3日目）>

- ・ファーストレフェリー、セカンドレフェリー、スコアラーは、専門委員、依頼審判員（公認審判員資格を持つ者）で担当する予定であるが、都合により当該の会場で試合を行ったチームスタッフの教員または公認審判員資格を持つ者に依頼する場合がある。
- ・ラインジャッジ、点示係については、各コートの第1試合は、当該コート第2試合の両チームが担当すること。第2試合以降は、当該コートの前試合で敗れたチームが担当すること。

○記録用紙は、日本バレーボール協会が定める公式記録用紙(3セットマッチ用、6人制ルールブック付録を参照)を用います。

○今回の大会より記録用紙のすべての項目を記入してください。

- チーム名 トスの結果 スターティングラインアップ
- セット開始と終了時刻 得点経過 サービス順の確認とサービス終了時の得点
- 選手交代時の選手番号と得点 タイムアウト時の得点と回数
- 試合結果欄の計算と記録 などの項目すべてです。

○記入方法について不明な場合は、6人制ルールブックの「公式記録記入法」を参照してください。

○記録用紙は、試合終了後、各会場担当の専門委員まで提出してください。

○審判関係の問い合わせ先： 奈良県中体連審判委員長 岡田 崇(葛城市立白鳳中学校)

リンク戦形式（男子のみ）で実施する場合の審判運営について

【レフェリー、コートオフィシャルについて】

<ファーストレフェリー・セカンドレフェリー（主審・副審）>

- ・ファーストレフェリー、セカンドレフェリーについてはチームスタッフの教員が務めること。外部コーチの場合は、日本バレーボール協会公認審判員資格を持つ者であればレフェリーを務めることができる。
- ・ファーストレフェリーを出せない場合は、対戦するチームに依頼すること。それでも出せない場合は、前日までに速やかに審判委員長（白鳳中学校 岡田 崇）まで連絡すること。
- ・ファーストレフェリー、セカンドレフェリーは、ホイッスルを使用すること。
- ・2コート同時進行の際、隣コートと区別できるように2種類（短管・長管）のホイッスルを用意すること。

<コートオフィシャル（生徒役員）>

- ・スコアラー（原則生徒で）・ラインジャッジ・点示係は、担当チームに所属する生徒が担当すること。ラインジャッジは、エントリー選手が担当すること。
- ・1チームで担当する場合は、スコアラー1名、ラインジャッジ4名、点示係2名を担当すること。チームの生徒数が7名に満たないチームの場合は、点示係を1名で行うこと。
- ・2チームで担当する場合は、各チームからラインジャッジ2名、点示係1名ずつを担当すること。スコアラー1名の担当については両チームで相談すること。
- ・スコアラーを担当する者は、各自で筆記用具を持参すること。

【各試合の審判割当について】

- ・事前に決められた審判割当に従って、ファーストレフェリー、セカンドレフェリー（1目目は任意、2目目は必須）、スコアラー、ラインジャッジ、点示係を担当すること。審判割当が2チームの場合は、両チームで相談の上、役割分担を行うこと。

<準決勝以降（大会3日目）>

- ・ファーストレフェリー、セカンドレフェリー、スコアラーは、専門委員、依頼審判員（公認審判員資格を持つ者）で担当する予定であるが、都合により当該の会場で試合を行ったチームスタッフの教員または公認審判員資格を持つ者に依頼する場合がある。
- ・ラインジャッジ、点示係については、各コートの第1試合は、当該コート第2試合の両チームが担当すること。第2試合以降は、当該コートの前試合で敗れたチームが担当すること。

○記録用紙は、日本バレーボール協会が定める公式記録用紙(3セットマッチ用、6人制ルールブック付録を参照)を用います。

○今回の大会より記録用紙のすべての項目を記入してください。

チーム名 トスの結果 スターティングラインアップ

セット開始と終了時刻 得点経過 サービス順の確認とサービス終了時の得点

選手交代時の選手番号と得点 タイムアウト時の得点と回数

試合結果欄の計算と記録 などの項目すべてです。

○記入方法について不明な場合は、6人制ルールブックの「公式記録記入法」を参照してください。

○記録用紙は、試合終了後、各会場担当の専門委員まで提出してください。

○審判関係の問い合わせ先： 奈良県中体連審判委員長 岡田 崇(葛城市立白鳳中学校)